

江口組の礎をつくった 曾祖父、祖父。 そして花開かせた父

私はいま石川県小松市にて、土木工事を中心とする建設会社 株式会社江口組の4代目経営者として仕事をしています。現場は多岐にわたるのですが、道路・橋梁・河川・海岸・学校・公共設備・下水道工事などのインフラ整備から災害復旧工事まで、街造りにかかわる様々な業務に携わっています。我々江口組が重機を操作し工事を進めるのではなく、工事現場をまとめる現場監督をするのが役割です。工程を管理し最初から最後まで安全第二でいいものを作り、問題なく工事完了させる責任を負っています。仕事の90%以上が公共工事ですので、依頼主は国・県・市。以前の入札制度では、金額が安いだけで仕事が取れていたのですが、今はそうではありません。工事実績や技術者の能力、そしてその現場をよりよくするためにはどうしたらいいのか？の提案も必要になり、総合的判断でこの会社が担当するのが、入札によって決まる仕組みになっています。土木工事のほかに、家づくり・エクステリア・外構工事などを専門的に行う関連会社クリエイション江口があり、総勢44名のスタッフを率い「地域の安心安全、そして住む人の豊かで笑顔あふれる生活を創ること」をモットーに日々仕事をしています。

江口組の始まりは1921年（大正10年）曾祖父の江口助七が土建業を始めたのがスタートです。なぜ土建屋さんを始めたのか？は今となってはわからないのですが100年以上にわたり地域の街造りにずっと関わっていて市内ではもともと

歴史ある建設会社になりました。二代目として1957年（昭和32年）に祖父江口乙吉が受け継ぎました。祖父は大工をしていたので土木だけでなく、建築の仕事も増やしていったようです。土木と建築って一般の人からいうと違いがわかりにくいかもしれませんが、野球場に例えると、球場を建てる前に水はけが良くなるように土地整備していくのが土木。その上に建物をつくるのが建築。地面から下が土木、地面から上が建築という区別ですね。弊社で言えば江口組は土木、クリエイション江口が建築を担当しているということです。そして会社を一気に大きくしたのが1990年（平成2年）に社長に就任した父 江口介二です。父が就任するころは経営も楽ではなく、それなりの借金もありました。まだまだ個人商店的なところもあったのでそれではまずいと組織化を進めたのが父でした。

むかしの建築屋さんの多くはどんぶり勘定。江口組もご多分に漏れずそんな状態。あまり計画性もなく、残った分が利益みたいな感じ。残つても残らなくてもなぜなのか？が良くわからないような経営。いつのまにか借金だけが増えている。そこでまずは原価管理を正確に行い、次に緻密な事業計画をたて会社の方向性を明確に示し、良い数字でも悪い数字でもその原因がきちんとわかるように改革しました。原因がわかると適切な対策がとれるようになります。同時に組織運営も変えていきました。営業部・管理部それぞれの役割と責任を明確にして誰が、いつなにをどこまでするのか？責任の所在と仕事の分担をはっきりさせていきました。みるみるうちに会社は良くなっていき、生きているうちには返すことが出来ないくらいに言われていた借入金を10年

先代たちのおかげで私に回ってきた4番目のバトン

